

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会 福祉サービス評価センターさが

②施設名等

名 称	佐賀清光園
施設長氏名	西村明純
定 員	50名
所在地(都道府)	佐賀県佐賀市呉服元町5番18号称念寺内
所在地(市町村)	佐賀市呉服元町5番18号称念寺内
T E L	: 0952-23-3295
U R L	:

③実施調査日

開始日	2013/12/25	西暦入力
評価結果確定日	2014/5/7	例) 2013/3/

④総評

*特に評価の高い点
 ・子ども等の養育・支援について、施設長を中心に職員・心理療法士等と毎朝会議を行い連携を取っている。
 ・避難訓練は毎月実施し、子ども等で班体制を整備し（班長・副班長・班の名簿作成し掲示）取り組んでいる。

*改善を求められる点
 ・職員や子ども等での共有できるマニュアルの整備や、養育・支援を含めたビジョンを達成する為の計画策定がなされていない。将来像を見据えた中・長期計画を職員・保護者・子ども等へ周知し実施・評価・見直しのサイクルを行う事が期待される。また、様式及び文章化することで、取り組みが計画達成の要件を満たす為、施設の支援の質の向上を進める上で必要と思われる。
 ・ボランティアの受け入れ体制作り、地域や保護者等との関わりを、施設全体で積極的に情報収集をして、施設から発信し地域との触れあえる体制づくり（施設が出来るボランティア）を望みたい。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

改善を求められた点については、きちんと受け止め、マニュアル整備や、中・長期計画を策定し児童養護施設の今後を見据えた行動計画を立てます。児童の健全育成に対し計画の立案見直し等が、わかりやすくなるような、データの管理方法等の改善、また保護者に対しての対応の文書化を早急に改善致します。さらに、地域やボランティアとの協働に関して、積極的な活動計画の作成等、施設のスタンスの改善を図ります。今回の評価により、様々な課題を指摘頂きありがとうございました。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	b
<input type="checkbox"/> 職員は心理学的知見や経験によって培われた感性に基づく深い洞察力によって子どもの理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもに問題行動等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの子育て歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解している。	
② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	○
<input type="checkbox"/> 子ども一人一人の基本的欲求を把握している。	○
<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	
<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	
③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、一人の職員が把握、援助しなければならない子どもの数が、一般家庭と比して極端に多くならないよう配慮している。	
<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。	

	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて特別支援教育を受ける機会を保障している。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域の資源の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、必要な情報交換ができている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	
	⑤ 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 施設のルール、約束ごとについては、話し合いの場が設定されており、必要に応じて変更している。	○
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>* 施設長を中心に毎朝会議を行っている。心理療法担当を配置している。</p> <p>* 施設が置かれている環境は、周りに子ども等の姿はなく、昔の面影が消え、現在は数少ない店舗が周りの中で地域との触れ合いが無い。施設が受け入れてくれる環境を望むより、このような状況であるからこそ、「施設が何ができるか」を、子ども等と考えて、地域・社会への貢献ができる体制作りを積極的に取り組み姿勢が必要と思われる。子ども等が社会的ルール等を学ぶ機会を得て、地域との触れ合いが出来る事を期待したい。</p>		

(2) 食生活		第三者 評価結果
①	食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	○
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○

	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	○
②	子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 少数の児童を対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	
③	子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおよつのはり方等、栄養についての正しい知識を教えている。	○
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○

(3) 衣生活

①	衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものが提供され、きちんと着用されるよう細やかな支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服は、ほつれ、ほころび、穴等、また汚れがないものが着用されている。	○

<input type="checkbox"/> 年齢に応じて、TPOに合わせた服装ができるよう配慮している。	
<input type="checkbox"/> 毎日取り替える下着や、汚れた時などに着替えることができる衣類が十分に確保されている。	○
<input type="checkbox"/> 生活場面や活動場面に応じて着替えることのできる衣類を提供している。	
<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	○
② 子どもの衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
<input type="checkbox"/> 個々の収納スペースを確保するなど、「自分の服である」という所有感を持てるようにしている。	○
<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を購入できる機会を設けている。	○
<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、衣服の着脱、整理整頓ができるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、選択、アイロンかけ、補修等衣服の自己管理ができるよう支援している。	
<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	

(4) 住生活

① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b
<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	
<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	○
<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにしている。	○
<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。	○
<input type="checkbox"/> 日常的な清掃や大掃除を行い、破損箇所については軽度な修繕を迅速に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○
② 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b

<input type="checkbox"/> 6人程度の小集団養育を行う環境づくりに配慮している。	
<input type="checkbox"/> 家庭的な環境としてくつろげる空間を確保している。	
<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	○
<input type="checkbox"/> リビングに子どもの作品や記念の写真が飾られるなど、子どもが安心していられる場所としての感覚(居がい感)を持てるような配慮がされている。	
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>* 食堂には箸の持ち方や配膳等の大きく掲示されている。・食堂等施設内外は子ども等で当番を決めて毎日清掃している。子ども等でおやつを作る台所があり利用している。* 食堂の環境において、家庭的なぬくもりのある雰囲気が必要と思われる。食事についても、調整は困難だと思われるが、「出来いではなく、どうするか」で、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくして食事の適温提供ができる取り組みが必要と思われる。・施設内外での環境については、職員と子ども等でプランターに花苗を育て温かい環境作りを期待したい。</p>	

(5) 健康と安全	第三者 評価結果
① 発達段階に応じ、身体 の健康 (清潔、病気、事故等) について自己管理ができるよう支援している。	b
<input type="checkbox"/> 幼児については、常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄等の状況を職員がきちんと把握している。	○
<input type="checkbox"/> 排泄後の始末と手洗いの支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> うがいや手洗いの習慣を養うように支援している。	○
<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、健康管理ができるよう支援している。	
<input type="checkbox"/> 夜尿のある子どもについて、常に寝具や衣類が清潔に保てるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなど、発達段階に応じた配慮がされている。	○
<input type="checkbox"/> 定例的に理美容をしている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から児童に教えている。	○
<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所を把握し、職員、子どもに注意喚起が行われている。	○
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	b
<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握している。	○

<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察している。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	
<input type="checkbox"/> 服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。	○
<input type="checkbox"/> 感染症に関する対応マニュアル等を作成し、感染症や食中毒が発生し、又は、まん延しないように必要な措置を講じるよう努めている。	
<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	
<input type="checkbox"/> 定期的に子どもの健康管理に努めバイタルチェック等により健康状態を把握している。	○

(6) 性に関する教育

① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
<input type="checkbox"/> 年齢、発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	
<input type="checkbox"/> 年齢相応で健全な異性との付き合いができるよう配慮している。	
<input type="checkbox"/> 年齢に応じた性教育のカリキュラムを用意し、正しい性知識を得る機会を設けている。	
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

* 夜間子どもの状態が悪い時は嘱託医との連携がある。・室内は整理整頓がされ、危険物等は必ず収納庫に保管されている。* 感染症予防対応マニュアル作成が行われていない。今後は職員や子ども等にわかり易く手順を掲示し即、対応できる様に施設全体の取り組みが必要と思われる。

(7) 自己領域の確保	第三者 評価結果
<p>① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。</p> <p><input type="checkbox"/> シャンプーなどの日用品は子どもの好みに応じて施設が用意している。</p> <p><input type="checkbox"/> お茶碗や箸は、個別性に配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの嗜好を反映させる。</p> <p><input type="checkbox"/> 字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 記名やマークが必要な物は、でき得る限り子どもからの許可を得、記名されても子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。</p> <p><input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p></p> <p>○</p> <p></p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>② 成長の記録(アルバム)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども一人一人に成長の記録(アルバム)が用意され、個人が保管し、自由に見ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 成長の記録に空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録(アルバム)が整理されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 成長の記録(アルバム)の整理が、子どもの生い立ちの整理につながっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 生い立ちの整理の前後に必要なフォローが適切になされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが振り返りたい時に、成長の記録(アルバム)をいつでも見ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に成長記録(アルバム)が手渡されている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p>
(8) 主体性、自律性を尊重した日常生活	

①	<p>日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの趣味や興味にあったプログラムになるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが主体的に行事の企画・運営に関わることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>行事等のプログラムに追われることなく、ゆとりある生活が過ごせるよう配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/>行事等の参画について、子ども一人一人の選択を尊重している。</p>	b
②	<p>主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの興味や趣味に合わせて、自発的活動ができるよう工夫している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども(外国籍の子ども等)の生活文化を保障し、自由に活動ができるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/>学校のクラブ活動への入部は、本人の希望を尊重している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが地域のサークル活動やレクリエーション等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの趣味に応じて、地域の文化・スポーツ活動への参加や習い事を認めている。</p> <p><input type="checkbox"/>図書・雑誌・新聞等、子どもの要望に応じた出版物を備えて、自由に閲覧できるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/>テレビ・ビデオ・ステレオ等オーディオ機器を備え、子どもの健全な発達に考慮した上で、自由に使用できるようにしている。</p>	b
③	<p>子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>計画的な小遣いの使用等、小遣い帳や通帳を使って金銭の自己管理ができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>無駄遣いをやめ、節約したことによる効果を実感できるようなお金の使い方を体験できるように工夫している。</p> <p><input type="checkbox"/>大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど経済観念や金銭感覚が身につくよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>小遣いの使途については、子どもの自主性を尊重し、不必要な制限を加えていない。</p> <p><input type="checkbox"/>一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。</p>	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

* 児童自治会を毎月実施しているが、子ども等が主体的に行事の企画・運営に関わることが必要である。地域へのボランティア等を実地し、自発的な活動を通して地域との触れ合いが出来るように、目標を持ち施設全体で社会へ貢献できる体制づくりに子ども等の主体性・自律性を期待したい。

(9) 学習・進学支援、進路支援等	第三者 評価結果
<p>① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出が無いよう把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 辞書・参考書等学習に必要な書籍を用意している。</p> <p><input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、中学生、高校生、大学受験生のための環境づくりなどの配慮をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 年齢や理解力に応じて、自分で学習計画が立てられるなど、学習習慣が身につくよう援助している。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 学習指導のため、ボランティアの協力を得ている。</p> <p><input type="checkbox"/> 進学児童には、家庭教師や地域の学習塾等を活用している。</p> <p><input type="checkbox"/> 基礎学力の回復に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 公立・私立、全日制・定時制にかかわらず高校進学を保障している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p></p> <p></p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、子どもと十分に話し合っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞くなど連携している。</p> <p><input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるような相談、支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 高校卒業後の進学についてもでき得る限り支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。</p>	<p>b</p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p></p> <p></p> <p></p>
<p>③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。</p>	<p>b</p>

<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 事業主等と密接に連携するなど、職場実習の効果を高めている。	
<input type="checkbox"/> 各種の資格取得を積極的に奨励している。	○
<input type="checkbox"/> 職場実習に対する実施規程などを作成し、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> 子どもの希望に応じてアルバイト等就労体験を積めるよう支援している。	○

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

* 静かに落ち着いた勉強できるための個人スペースや学習室等の環境づくりが必要と思われる。子どものアルバイト等就労体験を支援している以上、事業主等との密接に連携を取りながら実施規定等を作成の取り組みが必要と思われる。

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者 評価結果
<p>① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 問題状況が起こったときは、施設が、問題行動をとった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設の百々の生活が持続的に安定したもものとなっていることは、子どもの問題行動の軽減に寄与している。また子どもの問題行動が引き起こされた時も、その都度、問題行動によって生じた生活への影響を施設全体で立て直そうと努力している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の研修等を行い、問題行動に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 問題行動に対して、放置とにならないような対応を行っている。また、子どもの心身を傷つけずに対応するためには、施設内でタイムアウトをとれる支援体制や、児童相談所や警察などによる対応を依頼する体制などに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関等とケース会議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。</p>	b
<p>② 施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示している。</p> <p><input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性に配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が適切な対応ができるような体制になっている。</p>	b
<p>③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。</p>	b

<input type="checkbox"/> 強引な引き取りのための対応について職員に周知徹底している。	
<input type="checkbox"/> 引き取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	○
<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○

(11) 心理的ケア

① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置している。	○
<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づきその解決に向けた心理支援プログラムが策定されている。	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設における他の専門職との多職種連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

* 心理療法士担当職員配置がされているが、問題行動に対応できるための適切な援助技術を習得できるように、職員等の研修及び問題行動に対応した個別のマニュアル等を作成し、全職員が関わりが出来る取り組みが必要である。また、困難な事例検討会など実施し、専用の記録簿を作成するなどの対応が必要と思われる。

(12) 養育の継続性とアフターケア

第三者
評価結果

① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 措置変更に当たってはケース会議を開催し、措置機関や関係行政機関と協議のうえ、適切な措置変更の時期、措置変更後の生活等について検討している。	○
<input type="checkbox"/> 措置変更前の援助が適切に行われている。	
<input type="checkbox"/> 他の施設や里親への移行に当たり、措置変更後の生活がスムーズに行えるように配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
<input type="checkbox"/> 継続的な支援を行うための育ちの記録を作成している。	
<input type="checkbox"/> 措置変更した後も、施設として子どもが相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
<input type="checkbox"/> 措置変更時に、子どもに対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○
<input type="checkbox"/> 措置変更後の支援を積極的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 里親、児童自立支援施設などへ措置変更されたケースについて、再び児童養護施設での養育が必要と判断された場合、入所していた施設は再措置に対応している。	

<input type="checkbox"/> 18歳達する前に施設を退所し自立した子どもについては、まだ高い養護性を有したままであることを踏まえ、必要に応じて再入所の措置に対応している。	
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 退所に当たって、ケース会議を開催し、子ども本人や保護者の意向を踏まえて、児童相談所や関係機関と協議し、適切な退所時期、退所後の生活を検討している。	○
<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援など関係機関との役割を明確にしている。	
<input type="checkbox"/> 退所後も施設として子どもと保護者が相談できる窓口を設置し、退所後の相談を受けることを本人、保護者に伝えている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者の状況の把握に努め、退所後の記録を整備している。	
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b
<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学したり就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	
<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	
<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもについて、措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	
<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、自立に向けて、十分な準備を行い、適切な支援を行っている。	○
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先からの連絡、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいはアフターケアを行う民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所児童とが交流する機会を設けている。	
<input type="checkbox"/> 退所した子どもから相談があった場合、必要に応じ他の資源（ハローワーク・法テラス・退所後支援団体・当事者団体など）と連携している。	○
(特に評価が高い点、改善が求められる点) * 継続的な養育・支援を行うためのケース記録簿の見直しが必要である。鉛筆で記載したノート等が見られ、様式及び記載の検討が望まれる。・退所後の支援（アフターケア）が求められる。その為には、行政・福祉機関及び民間団体等との連携を図る体制づくりの取り組みが必要である。	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	b

	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を独立した専門職として配置し、その役割を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所の入所依頼があった段階から、施設と家族が信頼関係を構築できるよう努めている。	
	<input type="checkbox"/> 家庭訪問や親との面接などを通じて家族への働きかけを行い、親子関係の継続や修復に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、家族からの不適切なかかわりの発見に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の予定や情報を、家族に随時知らせている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが家族との交流を望む場合、積極的に支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者による「不当に妨げる行為」に対して、適切な対応を行っている。	
②	子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅については、規程に基づいて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 保護者を含めたケース会議を定期的に行き、外出や一時帰宅の様子について保護者からフィードバックしてもらっている。	
	<input type="checkbox"/> 親子が必要な期間一緒に過ごせるような宿泊設備を施設内に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが家族との交流を希望しない場合には、その意思を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 被虐待児など配慮の必要な子どもについては、ケース会議などで検討し、児童相談所と十分な協議の上で、行っている。	○
(2) 家族に対する支援		
①	親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 「親子関係の再構築」への取組に当たって、まずケースの総合的な見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みなどを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 最早期に、保護者等への家庭訪問やケース会議などが十分に積み上げ、関係者間の合意形成を図っている。	
	<input type="checkbox"/> 再構築へとつながる「親子宿泊」や「週末帰宅」などの取組を具体的に、柔軟に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要な親には掃除・洗濯・食事作りなどといった家事や金銭管理などの生活スキルをアドバイスし、親子と一緒に暮らす上での課題のクリアに努めている。	
(特に評価が高い点、改善が求められる点) * 家庭支援専門員を専門職として配置されている。親子関係の構築への取り組みに当たっては、努力はされているが、今後は家族に対する支援の情報収集に向けての検討が必要である。面会・外出・一時帰宅などの規定を明確な取り組みと策定が必要である。		

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果
<p>① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。</p> <p><input type="checkbox"/>把握した子どもの心身の状況や生活状況等の情報を、総合的に分析、検討した課題を適切に把握し、施設が定めた統一した様式によって記録している。</p> <p><input type="checkbox"/>アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/>部門を横断した様々な職種の関係職員(種別によって組織以外の関係者も)が参加して、アセスメントに関する協議を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人一人の具体的なニーズが明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/>様式の中には、子どもの強みや長所など伸ばすことも記載している。</p> <p><input type="checkbox"/>アセスメントは、子どもの担当職員をはじめ、心理療法担当職員、家庭支援専門相談員などが参加するケース会議で合議して行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画策定の責任者(基幹的職員等)を設置している。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画を策定するための部門を横断した様々な職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握を含んだ手順を定めて実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築されるとともに、機能している。</p> <p><input type="checkbox"/>児童相談所と援助方針等について打ち合わせ、自立支援計画に反映している。</p> <p><input type="checkbox"/>策定した自立支援計画を児童相談所に提出し、共有している。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画には、支援上の課題と、問題解決のための支援目標と、目標達成のための具体的な支援内容・方法を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/>支援目標は、子どもに理解できる目標として、表現し、努力目標として子どもに説明し、合意と納得を得ている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、ケース会議の参加職員、子どもや保護者等の意向把握を得るための手順等、施設として仕組みを定めて実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>見直しにより変更した自立支援計画の内容を関係職員に周知する手順を定めて実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。</p> <p><input type="checkbox"/>計画の見直し時には、支援方法を振り返り、自己評価し、支援の成果について分析、検証を行い、専門性や技術の向上に努め、施設全体の支援の向上に反映させる仕組みを構築している。</p> <p><input type="checkbox"/>アセスメントと計画の評価・見直しは、少なくとも半年ごとに定期的に行い、かつ緊急の見直しなど必要に応じて行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録

①	<p>子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画に基づく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導などの工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの強みや長所、あるいは発見などについて配慮しながら記録している。</p>	b
②	<p>子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の記録の保管、保存、廃棄に関する規程等を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等から情報の開示を求められた場合に関する規程を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護と情報開示の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護法を理解し、遵守している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員に守秘義務の遵守を周知している。</p>	b
③	<p>子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 情報共有を目的として、ケース会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 記録について、パソコンを利用している場合にはネットワークシステム等を利用して、パソコンを利用していない場合には台帳が整備され、施設内で情報を共有する仕組みを作っている。</p>	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

*養育・支援については、子ども一人一人のニーズを把握し、アセスメントをすることで職員・子ども等と課題を見出し、自立支援計画書を作成への手順が出来ていないと思われる。今後は支援目標として、子ども等の発達段階で具体的に目標を持つことで、達成できる喜びを味あわせ職員と共に努力することを学び理解し反映する取り組みが必要と思われる。今後は、施設全体で統一した様式・記録等の整備が求められる。子ども一人一人の目標課題を明確に手順を踏まえての取り組みの体制を期待したい。

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
<p>① 子どもの尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止について職員に周知徹底している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているか、振り返り検証する機会が設けられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員相互で子どもの養育に対する姿勢の士気が涵養されている。</p> <p><input type="checkbox"/> プログラムに縛られた生活ではなく、子どもと職員と一緒に生活を展開できるようになっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの利益を考慮し真摯に向き合っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの発達等に応じて、可能な限り事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、子どもの精神発達や個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、適切なフォローを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 家族の情報の中には子どもに知られたくない内容があることも考慮し、場合によっては児童相談所との連携を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等の整備や、施設・設備面での工夫等、組織として具体的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 居室への立ち入りや手紙の開封等が必要な場合の事前説明と本人の同意等について手続きを定めて行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p>

<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護に関する基本的知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・意識、利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等に基づいた養育・支援が実施されている。	
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
<input type="checkbox"/> 施設において宗教的活動を強要していない。	○
<input type="checkbox"/> 個別的な宗教活動は尊重している。	
<input type="checkbox"/> 保護者の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	○

(2) 子どもの意向への配慮

① 子ども意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 子どもの意向に関する調査を定期的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの意向を把握する目的で、子どもへの個別の相談面接や聴取、子どもや保護者との懇談会を定期的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者の意向を把握する目的で、子ども会や保護者会などに出席している。	
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者の意向に関する調査の担当者・担当部署の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果に基づいて具体的な改善を行っている。	
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	b
<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	
<input type="checkbox"/> 生活日課は子どもとの話し合いを通じて策定している。	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)
 * 児童自治会を毎月開催。* 各年度ごとに、目標や目的を持った自治会としての運営が望ましい。例として「プランターに花苗を皆で育て玄関に設置する」等環境の整備にもなる。* 施設の理念や基本方針等を子ども等にもわかり易く説明し、目に触れる場所へ掲示をするなどの工夫が必要である。既定のマニュアル等を整備し、施設全体での取り組みを期待したい。

(3) 入所時の説明等	第三者 評価結果
① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	b
<input type="checkbox"/> インターネットを利用して、施設を紹介したホームページを作成し公開している。	

	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の様子(内容)がわかりやすく紹介された印刷物等を作成し、希望があれば見学にも応じるなど養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行っている。	○
②	入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 入所時に、養育・支援の内容が具体的に記載された資料を用意して、子どもや保護者等に説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 説明に当たっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の規則、面会や帰宅などの約束ごとや生活上の留意点等についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの不安を解消し施設生活を理解できるよう配慮し、担当者を決めて適切な援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 入所時の子どもや保護者等への説明を施設が定めた様式に基づき行っている。	
	<input type="checkbox"/> 未知の生活への不安を解消し、これからの生活に展望が持てるようにわかりやすく説明している。	
③	子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、児童の分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 入所した時、生活する居室が清潔に整えられ、例えば花や歓迎のメッセージカードを添えるなど、温かく迎える準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めている。	

(4) 権利についての説明

①	子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で起こる出来事を通して、正しい理解につながるよう努めている。	
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料を使用して施設生活の中で守られる権利についてわかりやすく随時説明している。	○

<input type="checkbox"/> 子どもの状態に応じて、権利と義務・責任の関係について、理解できるように説明している。	
<input type="checkbox"/> 子どもに、子ども自身がかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもに、全ての子どもや大人たちも大切な存在であり、それらの人を悲しめたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○

(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境

① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 子どもが、複数の相談方法や相談相手の中から自由を選べることを、わかりやすく説明した文書を作成している。	
<input type="checkbox"/> 子ども等に、その文書を配布している。	
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に十分に周知し、日常的に相談窓口を明確にした上で、内容をわかりやすい場所に掲示している。	○
<input type="checkbox"/> 相談や意見を述べやすいようなスペースに配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもが自由に意見を表明できるよう、子どもと職員の関係づくりに取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 普段の子どもの表情や態度からも気持ちや意見を読み取るように取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 発達段階や能力によって十分に意思を表明することができない子どもに対して、職員が代弁者としての役割を果たすよう努めている。	
<input type="checkbox"/> 日常生活の場面で、面接を実施し、子どもから意見を引き出すよう取り組んでいる。	○
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	b
<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みを説明した資料を子どもや保護者等に配布、説明しているとともに、わかりやすく説明した掲示物を掲示している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者に対して、苦情記入カードの配布や匿名アンケート実施など子どもや保護者が苦情を申し出やすい工夫を行っている。	
<input type="checkbox"/> 苦情を受け付けて解決を図った記録が適切に保管されている。	
<input type="checkbox"/> 苦情への検討内容や対応策を、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	
<input type="checkbox"/> 苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮した上で、苦情内容及び解決結果等を公表している。	
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	b
<input type="checkbox"/> 意見や提案を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について規定したマニュアルを整備している。	